

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

## 沼津高架PIプロジェクト

### 原地区第2回勉強会

#### 開催概要

3月9日（土）、原地区にて第2回勉強会が開催されました。前回と同様に鉄道高架化や貨物駅の移転問題に関心のある団体等から推薦頂いた13名に加え、今回より原地区コミュニティ推進委員会から3名が参加して活発な議論が交わされました。

冒頭、第1回勉強会で配布の要望のあった統計データについて、説明がありました。続いてグループ別に議論が行われ、前半では広域に関するテーマについて、後半では原地区の地域づくりの目標と戦略課題について話し合いが行われました。

広域に関するテーマのうち、東部地域の拠点形成についての議論では、沼津だけで拠点が形成できるわけではないのではないか、沼津と周辺都市がそれぞれの特徴を活かして連携する発想が必要ではないか、といった意見が出されました。広域における「交流」については、スマートインターチェンジの整備を契機として、地元の特産品販売に関わる物流拠点を整備して雇用創出や活性化を期待する意見や、物流だけでなく人の交流拠点という視点が重要といった意見が出されました。「防災」に関しては、復旧や復興に備え鉄道と道路の両方でつながっていることが必要であることや、避難路としての道路網を考慮しておくことなどが提案されました。地域づくりの「財政と事業効果」については、今後税収が減少する可能性や長期的な費用対効果を考えて投資すべきという意見、また、子育て世代が住み続けられるかという視点が重要といった意見が出されました。「進め方」についての議論では、まちづくりなど計画の検討では地元意見を反映してほしいことや、県と市の連携をきちんとしてほしいといった意見が出されました。

後半での地域づくりの目標と戦略課題に関する議論では、原東部地区と原西部地区では状況や課題が大きく異なり、それぞれに適した戦略が必要であることや、開発されていない原西部地区についてはしっかりと構想していくことが必要との意見が出されました。基盤づくりにおいては、治水対策が最優先課題であり早期の対策が必要との意見や、東駿河湾環状道路の整備に伴う交通量への対処は、広域的に解決する必要があるとの意見が出されました。交通面では自動車の視点に偏らないで原駅を玄関口とした考え方も必要との認識も示されました。また、賑わいを生む戦略として、観光だけでなく健康・福祉の面からも来街者を集めたいといった意見が出されました。なお、今回の整理のように、戦略的に考えていくことが重要との指摘がありました。

最後に、全体ファシリテーターより参加者へ問いかけがあり、原地区の地域づくりの目標は概ね共通認識となった事が確認されました。

次回（4月20日（土））は、ステップ3に移り、より具体的な内容について検討を行う予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

## 沼津高架PIプロジェクト 原地区第2回勉強会

### グループ討議の概要【Aグループ】

今回の勉強会では、「地域づくりの目標」について、沼津市全体や広域に関わる内容について話し合いました。

このうち『拠点』については、沼津は三島や富士と連携し、集合体として「東部の拠点」を形成することで活性化を進めること、また、原地区についても沼津市のはずれという発想ではなく、集合体の一翼を担う地域として、特色や個性を発揮し発展することを目指したいとの考え方が示されました。

次に『交流』については、東駿河湾環状道路や新東名のスマートインターチェンジ等の整備に伴って、自動車でのアクセスが向上し多くの来訪者を見込めることから、農産物や特産品を販売する「道の駅」などの拠点施設が必要との考え方が示されました。防災の拠点についても、避難のために道路網を充実することや、東海大学を災害時の拠点として活用できないかといった意見が出されました。

『財政と事業効果』に関しては、命にかかわる事業を優先すべきことや、子育て関連の予算を増やして子育て世帯の流出を止めるべきこと、まちを活性化させる効果の高い事業を優先することなどの投資の優先順位に関わる意見や、時代の変化に応じて計画を見直すべきことなどの意見がありました。鉄道高架や貨物駅の事業については、必要性や費用対効果の面から再度見直しが必要ではないかとの意見もありました。

『PIの進め方』については、市に対しては同じ意見を何度も述べているとの指摘や、市と県で情報共有をして欲しいとの意見が出されました。また、勉強会での検討内容が高架事業とどう結びつくのかわからないことへの不安を訴える意見も出されました。

事務局から示された『戦略課題』については、概ね共有できることが確認されました。今後の課題としては、東駿河湾環状道路整備に伴い原地区内で新たに発生が想定される交通渋滞への対処もあるのではないかと指摘もありました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

## 沼津高架P Iプロジェクト 原地区第2回勉強会

### グループ討議の概要【Bグループ】

本日は『地域づくりの目標』のうち、広域的な内容や全体の進め方についての議論が行われました。

予め整理された目標のうち、初めに『拠点』について議論がなされました。拠点という言葉は一極集中する印象を与えるが、沼津市だけで拠点を形成するのではなく、東部地域の各市町が連携し、役割分担しながら一緒に発展すべきことがグループで概ね共有されました。その際、沼津市の人口や税収は県東部でトップであることから「拠点」としての位置づけをあえて否定することはないことも確認されました。

『交流』については、新東名のスマートインターや東駿河湾環状道路など新たな交通網の整備がなされれば、物流拠点の立地の可能性は十分あるのではないかとの意見や、モノの交流拠点だけでなく人の交流拠点としたいなどの意見が出されました。また、企業の立地や税収、雇用、賑わいは簡単には生まれないのではとの指摘もありました。

『財政と事業効果』については、沼津市財政に無理がないようにすることについては異論はなく、関連資料の提示の要望がありました。

『地域づくりの戦略課題』については、今後の検討で立ち返るべき基本姿勢が文章として表現されているとの意見がありました。また、原西部地域には未だ開発余地があり、富士山の眺望や自然や景観を活かして、農業や健康関連などの新規産業、また、公園を導入するなど、今後のランドデザインが重要であることや、一方、原東部地域は、寺町を活かし歴史や文化を軸にした観光を考えたいとの意見が出されました。

原西部地域に現存する処理場などの施設について議論があり、これらは必要不可欠な施設であることは分かるが、緑で囲むなどの工夫を施して地域のイメージを改善して欲しいことや、こうした施設は分散させて欲しいことなどの意見がありました。

この他、『原地区の地域づくりの目標』における「住環境」については、定住人口を増やし活力ある地域づくりを行うことで限界集落になることを避けたいといった意見が出されました。また、「広域から人を呼ぶ」ためには、先ずは今後予定されている交通網の整備とともに、懸案の放水路の整備が不可欠であることを共有しました。なお、勉強会資料を前もって配布して欲しいとの要望がありました。